





第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄托スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書ニ通テ作リテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラス直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作リ利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者ニ交付スヘシ

前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作リ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シタル金錢、證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作リタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二 供託ヲ有効ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコト



能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條 官廳又ハ裁判所ニ於テ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付スヘシ(三十四年令一七號)

第十四條 金庫ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領證ヲ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシシ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求官廳又ハ裁判所ヘ返還スヘシ(同上)

第十五條 供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ(三十四年令一七號)

營業ノ保證トシテ供託シタル現金ノ利息ハ毎年一月七月ノ二期ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ權利アル者ノ請求ニ依リ拂渡ヲ爲スヘシ(同上)

第十六條(三十四年令一七號) 前條第一項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスルモノハ第八號一書式ノ請求書ヲ又第二項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ同號二書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ヘ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店ヘ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領證ヲ證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

附則  
第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ牴觸スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
(書式略ス)

○會計検査院法 明治二十二年五月九日(改正三十九年法九〇號) 法律第十五號  
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計検査院法  
第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス  
第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十員及屬若干員ヲ置ク(三十九年法九〇號) (三十九年法八一號)



第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラザレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラ  
ルルコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長  
ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢  
査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作  
ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ  
違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必  
要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但  
シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ



前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計検査院事務章程 明治三十二年十二月二十三日 勅令第四百五十七號

朕會計検査院事務章程ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院事務章程

第一條 會計検査院ニ第一部第二部第三部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ検査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條 會計検査院ニ院長官房ヲ置ク

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第四條 總會議ハ會計検査官現員ノ三分ノ二以上部會議ハ其ノ部ノ會計検査官現員ノ半数以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス



出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ總會議ニ於テハ三名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官、委員又ハ検査官補ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス  
第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

委員ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス  
第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ叙位叙勳ヲ上奏シ又ハ増俸賞與ヲ行フ  
第十條 院長ハ會計検査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設ケタルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

- 一 各部ノ分課ヲ定ムルコト
- 二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト
- 三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト
- 四 検査官補ニ總會議出席ヲ命スルコト
- 五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト

六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト

七 部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト

八 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト  
第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限り院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得

第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

- 一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト
- 二 検査官補ニ部會議出席ヲ命スルコト
- 三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ幫助セシムルコト
- 四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト



第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審査シ其ノ總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ

第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條 検査官補ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條 検査官補ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ従事ス

速記技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ速記ノ事務ニ従事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シテ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

第二十九條 會計検査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ検査判決ヲ行フヘシ

第三十條 會計検査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ事由ヲ検査成績書ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條 會計検査院ハ出納官吏ニ對シテ再審ヲ行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セザリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ

二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ



三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ  
第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

### 租稅

○非常特別稅法 明治三十七年三月三十一日(改正三十八年法一號三十九年法七、一六、一九號四〇年法)  
法律第三號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非常特別稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 非常特別稅法

第一條(三十八年法一號)

第二條(三十八年法七號) 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ增徴ス

#### 一 地租

- 市街宅地 地價百分ノ十七箇五
- 郡村宅地 地價百分ノ五箇五
- 其ノ他ノ土地 地價百分ノ三箇

- 二 營業稅 營業稅法ニ依ル稅額十五割
- 三 所得稅

#### 第一種 所得

- 甲 株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會社 所得稅法ニ依ル稅額十五割



乙 其ノ他ノ法人

所得金額五千圓未滿  
 所得金額一萬圓未滿  
 所得金額一萬五千圓未滿  
 所得金額二萬圓未滿  
 所得金額三萬圓未滿  
 所得金額五萬圓未滿  
 所得金額十萬圓未滿  
 所得金額十萬圓以上

所得稅法ニ依ル稅額八割  
 所得稅法ニ依ル稅額九割  
 所得稅法ニ依ル稅額十割  
 所得稅法ニ依ル稅額十二割  
 所得稅法ニ依ル稅額十七割  
 所得稅法ニ依ル稅額二十割  
 所得稅法ニ依ル稅額三十割  
 所得稅法ニ依ル稅額四十割

第三種 所得

所得金額五百圓未滿  
 所得金額千圓未滿  
 所得金額五千圓未滿  
 所得金額一萬圓未滿  
 所得金額一萬五千圓未滿  
 所得金額二萬圓未滿  
 所得金額三萬圓未滿  
 所得金額五萬圓未滿  
 所得金額十萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十割  
 所得稅法ニ依ル稅額十一割  
 所得稅法ニ依ル稅額十三割  
 所得稅法ニ依ル稅額十四割  
 所得稅法ニ依ル稅額十五割  
 所得稅法ニ依ル稅額十七割  
 所得稅法ニ依ル稅額十九割  
 所得稅法ニ依ル稅額二十一割  
 所得稅法ニ依ル稅額二十四割

所得金額十萬圓以上

所得稅法ニ依ル稅額二十七割

四 【酒稅】(四一年法一八)  
 一九二〇號  
 五 【砂糖消費稅】(四一年法)  
 一號  
 六 【醬油稅】(三九年法)  
 一六號

醬油稅則第二條本文ニ依ル場合

醬油

溜

醬油稅則第二條但書ニ依ル場合

醬油

溜

七 登錄稅

不動產ニ關スル登記

登錄稅法第二條第三號ノ登記

登錄稅法第二條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

華族世襲財產ノ創設

船舶ニ關スル登記

登錄稅法第三條第三號ノ登記

登錄稅法第三條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

諸味一石ニ付金五十錢  
 製成一石ニ付金五十錢  
 諸味一石ニ付金二十五錢  
 製成一石ニ付金二十五錢

不動產價格千分ノ二十  
 不動產價格千分ノ十  
 不動產價格千分ノ三  
 不動產價格千分ノ五  
 船舶價格千分ノ三十  
 船舶價格千分ノ十  
 船舶價格千分ノ二



登録税法第六條及第六條ノニ依ル登録税

課税標準ノ千分比例ヲ以テ税率ヲ定メタルモノ  
一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ税額ヲ定メタルモノ

課税標準千分ノ一

税額金十圓ナルトキ金五圓

税額金五圓ナルトキ金二圓

税額金三圓ナルトキ金二圓

税額金二圓ナルトキ金一圓

税額金一圓ナルトキ金五十錢

税額金五十錢ナルトキ金二十錢

鑛業ニ關スル登録

試掘權ノ設定

増區又ハ増減區ニ依ル試掘權ノ變更

相續以外ノ原因ニ因ル試掘權ノ移轉

採掘權ノ新規登録

増區又ハ増減區ニ因ル採掘權ノ變更

相續以外ノ原因ニ因ル採掘權ノ移轉

八 取引所税

商品、有價證券

國債及地方債證券

九 狩獵免許税

每一件金二十五圓

每一件金十圓

每一件金十圓

每一件金五十圓

每一件金二十五圓

每一件金二十五圓

賣買各約定代金高萬分ノ六  
同 萬分ノ二

一等	金二十圓
二等	金二十圓
三等	金五圓
十 鑛區税	
試掘	鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢
採掘	鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢
十一 賣藥營業税	
每方劑一箇年ノ製造高ニ對スル定價總額三百圓未滿ノモノ	金一圓
同五百圓未滿ノモノ	金三圓
同千圓未滿ノモノ	金五圓
同二千圓未滿ノモノ	金七圓
同三千圓未滿ノモノ	金十圓
同五千圓未滿ノモノ	金十五圓
同一萬圓未滿ノモノ	金二十圓
同二萬圓未滿ノモノ	金三十圓
同三萬圓未滿ノモノ	金四十圓
同五萬圓未滿ノモノ	金五十五圓
同七萬圓未滿ノモノ	金七十圓



同十萬圓未滿ノモノ  
同十萬圓以上

金八十五圓  
金百圓

十二 印紙稅(四〇年法二七號)  
印紙稅法第四條ニ掲ケタル證書帳簿但シ判取帳ヲ除ク

印紙稅金一錢  
印紙稅金五錢

判取帳

前項第三號株主又ハ株主及社員ノ數ハ其ノ事業年度間ノ最多數ニ依ル  
第一項第十一號ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル

第三條(同上) 左ノ割合ニ依リ砂金採取業者ニ砂金採取地稅、汽車、電車、汽船ノ乗客ニ通行稅、織物ニ消費稅ヲ課ス(三九年法一九號)  
(四〇年法二七號)

一 【小切手印紙稅】

二 砂金採取地稅

河床

河床ニ非サルモノ

採取區域一町毎ニ一箇年金三十錢  
採取區域一千坪毎ニ一箇年金三十錢

三 通行稅

二百哩又ハ二百海裡以上

一等 金五十錢  
二等 金二十五錢  
三等 金四錢

二百哩又ハ二百海裡未滿

一等 金四十錢  
二等 金二十錢  
三等 金三錢

百哩又ハ百海裡未滿

一等 金二十錢  
二等 金十錢  
三等 金二錢

五十哩又ハ五十海裡未滿

一等 金五錢  
二等 金三錢  
三等 金一錢

四 織物消費稅

毛織物

價格百分ノ十五

毛織物以外ノ織物

價格百分ノ十

通行稅ヲ賦課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分タサルモノニ在リテハ三等ノ稅額ヲ適用シ二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等三等ノ稅額ヲ適用シ四等級以上ニ分チタルモノニ在リテハ最初ノ二等級ヲ以テ一等二等ト爲シ其ノ他ハ總テ三等ノ稅額ヲ適用ス  
貸切、定期又ハ回数乗船車若ハ多人數乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ第一項第三號







配當要求

家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復権ノ申立

強制競賣又ハ強制管理ノ申立

債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請

民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

證據調ノ申立

判決ノ送達ヲ求ムル申立

執行力アル正本ヲ求ムル申立

但シ此ノ正本數通ヲ求ムルトキハ每一通ニ付

假差押又ハ假處分ノ申請

抗告

故障

金五十錢

答辯書其ノ他特ニ掲ケサル申立又ハ申請

金五十錢

左ニ掲クル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八十錢ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 裁判上代位ノ申請

二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三 裁判上ノ代位、競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告

訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規定ヲ適用セス

本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス

第五條ノ一 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 左ニ掲クル申立

抗告

債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

金五十錢

支拂猶豫ノ申立

金五十錢

二 其ノ他ノ申立又ハ申請

破産手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

金十錢

財團ノ價格金五圓マテ

金二十錢

同 十圓マテ

金四十錢

同 二十圓マテ

金六十錢

同 五十圓マテ

金六十錢

同 七十五圓マテ

金一圓

同 百圓マテ

金一圓

同 二百五十圓マテ

金四圓

同 五百圓マテ

金四圓

同 七百五十圓マテ

金四圓

同 千圓マテ

金六圓



同 二千五百圓マテ  
 同 五千圓マテ  
 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ  
 前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ準用ス  
 第五條ノ二(同上) 行政訴訟ノ書類ニハ其ノ正本ニ左ノ金額ノ印紙ヲ貼用スヘシ  
 但シ裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 訴狀 金七圓
- 二 故障 金一圓
- 三 證據調ノ申立 金一圓
- 四 判決ノ送達ヲ求ムル申立 金一圓
- 五 期日ノ變更辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立 金四十五錢
- 六 從參加ノ申請 金四十五錢
- 七 忌避ノ申請 金四十五錢
- 八 費用額確定ノ申請 金四十五錢
- 九 答辯書其ノ他前各號ニ掲ケサル申立又ハ申請 金二十五錢

裁判費用ヲ濟済スルコトノ假免除アリタル場合ノ外前項ニ依リ印紙ヲ貼用セサル行政訴訟ノ書類ハ其ノ效ナキモノトス但シ印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得

第五條ノ三(四〇年) 砂金採取地稅ヲ徵收スル場合ニ於テ一町未滿又ハ一十坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一十坪トシテ計算ス

第五條ノ四(三八年) 砂金採取地稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第五條ノ五(同上) 砂金採取地稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業ノ廢止ノ年ニ係ルモノ亦同シ

砂金採取業ノ許可又ハ採取地ノ變更ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル砂金採取地稅ニシテ初年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ砂金採取地稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業ノ廢止ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第五條ノ六(同上) 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者之ヲ徵收シ一箇月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

汽車、電車又ハ汽船營業者カ前項ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

外國行ノ汽船ニ乘シ外國ニ赴ク者ニハ通行稅ヲ課セス

當該官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第六條(同上) 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス

- 一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品トナシテ外國ニ輸出セムトスル織物
- 二 製造者ノ自用ニ供スル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金又ハ相當印紙ヲ交付ス

第七條(同上) 毛織物ノ消費稅ハ製造場、稅又關ハ保稅倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付



スヘシ

毛織物以外ノ織物ノ消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ移出スル前之ニ相當印紙ヲ貼用シ税金ノ納付ニ代フヘシ但シ移出前織物ノ價格ニ依リ之ニ相當スル税金ヲ納付シ織物ニ税金納付済ノ證印ヲ受ケタルトキハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ税額一錢未満ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第二項ニ依ル印紙ノ貼用、消印及税金納付済ノ證印ニ關スル方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條ノ一(同上) 消費税額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三箇月以内ノ期間ヲ以テ毛織物消費税ノ徵收ヲ猶豫ス

第八條ノ二(同上) 左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ織物ノ移出ヲ爲スコトヲ得

一 政府ノ承認ヲ得テ他ノ製造場ニ移出シ又ハ貯藏場ニ藏置スル爲織物ヲ移出スルトキ

二 政府ノ承認ヲ得テ染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ移出スルトキ

三 賃織場ヨリ賃織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ

四 一定ノ場所ニ於テ消費税ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從テ織物ヲ移出スルトキ

五 輸出ノ目的ヲ以テ製造セル特殊ノ織物ニシテ製造場ニ於テ政府ノ免稅證印ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條ノ三(同上) 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル毛織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費税

ノ徵收ヲ爲サス

第九條 第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ(三八年 法一號)

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物以外ノ織物ヲ移出セムトスル者ハ之ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ但シ第七條第二項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

前項價格表記ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第十條 第六條第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費税納付前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス(同上)

第十一條 織物製造者ハ第六條第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費税納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス(同上)

第十二條(同上) 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ自用ニ供スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス



第十三條ノ一(同上) 織物製造者ハ其ノ製造場ニ於テ織物ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得製造ノ場所ト販賣ノ場所トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ二(同上) 織物販賣者印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣セムトスルトキハ販賣者ハ價格ヲ改記シ之ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第十四條 織物ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ織物ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ(同上)

第十五條 收税官吏ハ織物ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り織物、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得(同上)

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得(同上)

第十七條ノ一(同上) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セシテ織物ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スルモノトシテ消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 第八條ノ二ニ依リ移出シタル織物ヲ其ノ定メラレタル移出先ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四 第十條又ハ第十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキ

第十七條ノ二(同上) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ

徵收ス但シ罰金額ハ五圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ販賣シタルトキ

二 第十三條ノ二ニ依ラスシテ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣シタルトキ

第十七條ノ三(同上) 織物販賣者印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

收税官吏前項ノ犯則ヲ發見シタルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハズ販賣者ノ費用ヲ以テ其ノ織物ニ相當印紙ヲ貼用スルコトヲ得

前項ニ依ル費用ノ徵收ニハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 織物ノ製造者又ハ販賣者織物ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ(同上)

二 織物ニ印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ貼用又ハ消印ヲ爲ササルトキ(同上)

三 織物ニ價格ヲ表記スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ表記ヲ爲ササルトキ(同上)

四 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アル場合ハ刑法ニ依ル

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十條 織物ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令



令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス(同上)

第二十二條(四一年法)  
(三七號)

附則

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入税ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業税、所得税ニ關シテハ明治三十七年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條ノ課税制限ハ明治三十七年度ヨリ之ヲ適用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ税目又ハ税率ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ其ノ牴觸ノ部分ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

第二十四條(三八年法)  
(一號)

第二十五條(同上)

第二十六條(四〇年法)  
(二〇號)

第二十七條(三九年法)  
(七號)

○非常特別税法施行規則

明治三十七年三月三十一日(改正三七年勅一三九號)  
勅令第八十五號  
三八年勅一號

朕非常特別税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非常特別税法施行規則

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自用ニ供スルモノノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第一條ノ二(三八年勅一號) 株式會社又ハ株式合資會社カ所得税法施行規則第三條ニ依リ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スル場合ニ於テハ其ノ事業年度間ニ於テ最多數ナリシ時ニ於ケル株主又ハ株主及社員ノ數ヲ併セ申告スヘシ

第一條ノ三(同上) 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ一方劑毎ニ前年中ニ製造シタル賣藥ノ定價總額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第一條ノ四(同上) 通行税ハ汽車、電車又ハ汽船ノ乘船車賃ヲ領收スルトキ之ヲ徵收スヘシ

第一條ノ五(同上) 汽車、電車又ハ汽船營業者ハ拂込書及計算書ヲ添附シ毎月十日迄前月分ノ通行税ヲ各營業場所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ但シ營業者カ本店所在地所轄稅務署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムコトヲ得

官設鐵道ニ於テ通行税ヲ金庫ニ拂込ムトキハ計算書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ(三八年勅一號)

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上)

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ(同上)



第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ織物製造場ノ圖面若ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ織物製造者ハ之ヲ提出スヘシ(同上)

第四條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上)

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上)

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上)

第五條 織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上)

第六條 第二條若ハ第五條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上) 織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ(同上)

第八條(同上) 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條(同上) 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取り又ハ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ 輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナ

シト認メタル場合ニ於テハ所轄稅務署ハ前項ノ承認ノ省略ヲ許可スルコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場又ハ之ヲ藏置スル貯藏場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第九條ノ二(同上) 消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出スル場合ニ於テ輸出港税關ノ検査ヲ受ケ其ノ織物又ハ其ノ物品ノ原料タル織物ニ付現金又ハ印紙ヲ以テ消費税ヲ納付シタルノ證憑ヲ具シテ出願シタルトキハ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス但シ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ輸出スル場合ニ於テハ消費税納付ノ證憑ヲ具スルコトヲ要セス

第十條 製造者ニシテ其ノ自用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスルモノハ製造場外ニ移出セムトスルトキ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ(同上)

第十一條(同上) 非常特別稅法第八條ノ二ニ依リ政府ノ承認ヲ得又ハ政府ノ免稅證印ヲ受クヘキ場合ニ於テハ所轄稅務署ニ對シテ其ノ承認又ハ免稅證印ヲ求ムヘシ

第九條第三項ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ準用ス

第十二條(同上) 非常特別稅法第六條及第八條ノ二ノ場合ノ外製造場ヨリ毛織物ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨製造場所轄稅務署ニ申告シ併セテ其ノ價格ヲ申告スヘシ

非常特別稅法施行規則



ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十二條ノ三(同上) 非常特別税法第七條第二項但書ニ依リ税金ノ納付ヲ爲サムトスル者ハ織物ノ移出前其ノ旨所轄稅務署ニ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼附シ又ハ織物ニ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

第十四條 非常特別税法ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル(同上)

第十五條 擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

第十七條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ

第十八條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ有價證券ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ

第十九條 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ニ申出テ其ノ承認ヲ得タルトキハ代リ印紙ノ交付ヲ請求シ又ハ更ニ納稅濟ノ證印ヲ請求

スルコトヲ得

第十七條ノ三(同上) 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ヲ小切レト爲シテ販賣セムトスルトキハ成ルヘク印紙貼用又ハ證印ナキ部分ヨリ之ヲ切離スヘシ但シ印紙貼用又ハ證印アル部分ヲ切離スル必要アルトキハ其ノ貼用印紙又ハ證印アル部分ヲ切取り之ヲ保存シ毎月分ヲ取離メ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ廢棄ノ處分ヲ受クヘシ

第十八條 織物製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ(同上)

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ(同上)

- 一 引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
  - 二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス
- 第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ藏置場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 收稅官吏ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス(同上)



第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ(同上)

第二十三條(三七年勅) 本令中稅務署ト稱スルハ臺灣ニ在リテハ廳ヲ謂フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法第二十四條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第二條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

○地租條例

明治十七年三月十五日(改正三二年法三〇號三一年法三二號三四年法三〇號)  
太政官布告第七號(三六年法一三號三八年法三三號四一年法三六號)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島【函館縣】沖繩縣【札幌縣】【根室縣】ハ當分從前ノ通タルヘシ(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ(三二年法)

明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ増徴ス(三二年法)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(三〇年法)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川缺、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條(三八年法) 左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 鄉村社地

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、隄塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地(四一年法)

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路



府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條(三二年法三〇號) 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條(同上) 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條ノ一(同上) 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條

第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十條ノ二(三六年法) 前條第一項ノ届出アリタルトキハ其年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其

年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部納付後届出アリタルトキハ翌年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條(三二年法三〇號)

第十三條(三八年法三三號) 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登録セラレタル者ヲ謂フ

第十四條(三〇號) 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ

此限ニ在ラス

第十五條(同上) 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條(同上) 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出鉞下年期ノ許可ヲ受クヘシ鉞下

年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ鉞下年期

ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本

條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ



第十七條(三六法) 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾下年期若クハ地價据置年期ノ許  
可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ  
第十條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第十八條(三二法三〇號)  
(三四年法三〇號)

第十九條(三二法) 嶽下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條(同上) 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條(同上) 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ  
低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條(同上) 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ  
復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條(同上) 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定  
ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條(同上) 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以  
内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ  
歸スルモノトス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ  
定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス(三二法三〇號)

第二十六條(同上) 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ

定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條(同上) 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ  
處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三  
年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地  
人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ  
免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例及國稅徵收法ヲ沖繩縣宮古郡八重山郡ニ施

行 明治三十五年十二月二十五日  
勅令第二百七十五號

朕地租條例及國稅徵收法ヲ沖繩縣宮古郡八重山郡ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣宮古郡八重山郡ニ明治三十六年一月一日ヨリ地租條例及國稅徵收法ヲ施行ス

○沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ地租條例

及國稅徵收法施行 明治三十六年十二月九日  
勅令第二百七十八號

地租條例及國稅徵收法ヲ沖繩縣宮古郡八重山郡ニ施行  
沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ地租條例及國稅徵收法施行



朕沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ地租條例及國稅徵收法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ明治三十七年一月一日ヨリ地租條例及國稅徵收法ヲ施行ス

○地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法 明治三十九年四月十日 法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道ニ地租條例ヲ施行ス

第二條 北海道ニ於ケル地租定率ハ當分地價百分ノ一トス

○地租條例施行規則 明治三十二年三月三十一日 改正 三十五年勅二五三號 三八年勅二三二號

朕地租條例施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

第一條 土地ニハ番號ヲ付シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス

- 一 別地目トナルトキ
  - 二 有租地ニシテ免租地トナルトキ
  - 三 免租地ニシテ有租地トナルトキ
  - 四 所有者ヲ異ニスルトキ
  - 五 質權ノ目的トナルトキ
  - 六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的トナルトキ (三八年勅 三三二號)
- 第三條 地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校地、鄉村社地ハ借地ニアラサルモノニ限ル
- 第四條 第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ
- 第五條 地目變換又ハ地類變換ノ後五年以内ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
- 第六條 地目變換ノ後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ開墾著手ノ年ヨリ十年目又ハ歛下年期明ニ至リ其ノ成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス
- 地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ再ヒ第一類地トナストキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ストキハ地目變換ヲ爲シタルモノトス
- 第七條 開墾著手後十年以内又ハ歛下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタルモノトシ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
- 第八條 地目變換若ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト爲シタルトキハ其



ノ地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス

第九條 地租條例第十條第一項ニ違犯スル者其ノ變換ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ其ノ發覺ノ年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十條 地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做ス

第十一條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第十二條 荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サス

第十三條 荒地免租年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地トナリ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル荒地免租年期又ハ低價年期ハ消滅ス

第十四條 地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法第五十六條ニ依リ墾下年期、地價据置年期、免租年期、繼年期又ハ低價年期ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ願出ツヘシ(三三三號)  
(三三三號)

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ(同上)

- 一 有租地ヲ用惠水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ノ敷地ト爲ストキ
- 二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ
- 三 開墾ヲ爲サムトスルトキ、開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ
- 四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ヲ請ハ

サルトキ

五 墾下年期明、地價据置年期明、新開免租年期明、荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ

六 數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セムトスルトキ  
前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地方ヲ比較シ相當ノ地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十六條 地租ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ市區町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村内ニ住居スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其ノ市區町村長又ハ戸長ニ申告スヘシ

○土地臺帳規則

明治二十二年三月二十二日  
勅令第三十九號  
(改正三七年勅一〇七號)

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

- 第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ(三七年勅一〇七號)
- 第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得







沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區内ノ部及間切島内ノ村

北海道地方費(三九年勅令三五三號)

北海道ノ區及區町村内ノ部(同上)

北海道土功組合(同上)

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキヨリ一箇年トス

○免租地ヲ有租地ト爲スヲ許可シタルトキ通知方

明治三十二年四月二十日 大藏省訓令第三十二號

北海道廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

地方廳ニ於テ地租條例第十一條ニ依リ免租地ヲ有租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキハ其郡、市、町、村、大字、地番、段別、免租地タリシトキノ名稱、目的地ノ地目、許可年月日等ヲ記載シ所轄稅務署長ニ通知スヘシ(三六年勅令一號)

○森林法、河川法、砂防法ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ許可シタル

場合通知方

明治四十一年四月一日 大藏省訓令第二十號

府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

地方長官ニ於テ森林法又ハ河川法若ハ砂防法ノ規定ニ依リ土地所有者ノ申請ニ對シ一定ノ行爲ヲ許可シタル場合ニ於テ地租條例ノ開墾又ハ地目變換若ハ地類變換ニ該當スルモノアルトキハ其ノ都度郡、

市、町村、字、地番、地目、段別及許可年月日事由等ヲ所轄稅務署長ニ通知スヘシ

○秋下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法

明治三十四年四月十二日 法律第三十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル秋下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例ニ依リ秋下年期、新開免租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ二期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾秋下年期及地價据置年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓秋下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ起ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ本法施行前既ニ二期期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル法

明治三十四年四月十二日 法律第三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

免租地ヲ有租地ト爲スヲ許可シタルトキ通知方 森林法、河川法、砂防法ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ許可シタル場合通知方 秋下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法 開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル法



開墾著手後九年ヲ經過セサル土地又ハ鐵下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期ヲ有スル土地ニ對シ荒地免租年期又ハ低價年期ヲ許可シタルトキハ其ノ期間ハ地租條例第十六條第二項ノ十年中ニ又ハ鐵下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期中ニ算入セス

附則

本法ハ開墾著手後九年以内ニ又ハ鐵下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期中ニ荒地免租年期又ハ低價年期ノ許可ヲ受ケ其ノ年期明ニ至リ未タ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲ササルモノニモ之ヲ適用ス

○砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件

明治三十二年八月十五日 (改正三五年勅令第三百七十四號)

朕砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依ル地租其他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ(三五年勅令二百五十三號)

第五條 本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

○水害地方田畑地租免除ニ關スル法 明治三十四年四月十二日 (改正四〇〇年法法律第二十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水害地方田畑地租免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一府縣又ハ數府縣ノ全部若ハ一部ニ互レル水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除ス

前項ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ罹災後三十日以内ニ主務官廳ニ申出ツヘシ此ノ期間内ニ申出テサル者ハ免租ノ處分ヲ受ケルコトヲ得ス

本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス(四〇〇年法四〇〇號)

附則 本法ノ規定ハ之ヲ本法施行前一年間ニ水害、蟲害、風害又ハ旱害ヲ被リタル田畑ニ準用ス但シ申出期間ハ本法施行ノ日ヨリ起算ス

○地租徵收ニ關スル法 明治三十七年三月三十一日 法律第十二號

砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件 水害地方田畑地租免除ニ關スル法 地租徵收ニ關スル法



朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收ス但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納税人ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做スコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテニ地價及地租ノ總額竝ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所轄收税官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス  
納期開始前十五日ヨリ納期開始マテニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動額ヲ所轄收税官廳ニ報告スヘシ

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長カ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○地租徵收期限 明治二十四年三月十四日 法律第二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期	該年九月一日ヨリ	五分
二期	該年十一月三十日ヨリ	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ	五分
四期	該年一月十五日ヨリ	五分
五期	該年二月二十八日ヨリ	五分
六期	該年三月三十一日ヨリ	五分
	該年五月三十一日ヨリ	五分

細方及宅地山  
林原野牧場

同

田方

同

同

同

○鹿兒島縣下大島郡川邊郡各島地租徵收期限 明治三十年三月九日 法律第五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地租徵收期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラズ左ノ期限ニ依リ徵收ス

大隅國大島郡ノ内大島、徳ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島

翌年五月一日ヨリ同三十一日限

薩摩國川邊郡ノ内硫黃島、竹島、黒島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀬島、臥蛇島、惡石島、寶島

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限

○沖繩縣宮古郡八重山郡地租納期 明治三十五年十二月二十五日 勅令第二百七十七號

朕沖繩縣宮古郡八重山郡地租納期ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣宮古郡八重山郡ノ地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ宮古郡多良間島八重山郡大濱間切波照間村及與那國島ノ地租ハ翌年六月一日ヨリ九月三十日限之ヲ徵收ス

- 一期 該年八月一日ヨリ 同月三十一日限 田租全部 畑地五分
- 二期 翌年三月一日ヨリ 同月三十一日限 宅地全部 畑地五分
- 三期 翌年五月一日ヨリ 同月三十一日限 田畑宅地以外ノ地租全部

○沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ノ地租納期

明治三十六年十二月九日 勅令第二百七十九號

朕沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ノ地租ノ納期ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ノ地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ島尻郡島ノ地租ハ翌年六月一日ヨリ九月三十日限之ヲ徵收ス

- 一期 該年七月一日ヨリ 同七月三十一日限 市街宅地地租 五分
- 二期 同八月一日ヨリ 同八月三十一日限 田畑宅地地租 全部
- 三期 翌年一月一日ヨリ 同一月三十一日限 市街宅地地租 五分
- 四期 同三月一日ヨリ 同三月三十一日限 畑地地租 五分
- 五期 同五月一日ヨリ 同五月三十一日限 田畑宅地以外ノ地租 全部

○災害地地租延納ニ關スル法 明治三十六年六月十五日 法律第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル災害地地租延納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

災害又ハ天候不順ニ因リ府縣及北海道ノ全部若ハ一部ニ互リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ付テハ十年以内ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得 前項ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シ主務官廳ニ出願スヘシ 本法ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

沖繩縣宮古郡八重山郡地租納期 沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ノ地租納期 災害地地租延納ニ關スル法 下卷 一六九



本法ニ依リ被害調査中ハ地租ノ徴收ヲ猶豫ス

附則

本法ノ規定ハ之ヲ明治三十五年分田畑地租ニ準用ス

明治三十六年勅令第八號ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ更ニ期間ノ更正ヲ求ムルコトヲ得  
前二項ニ依リ延納ノ許可ヲ得又ハ期間ノ更正ヲ求メムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ出願スヘシ

○沖繩縣滯納舊租延納法 明治三十七年三月三十一日 法律第十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣滯納舊租延納法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣滯納舊租延納法

沖繩縣ニ於ケル明治三十五年以前ノ地租ニシテ非常特別稅法施行ノ際滯納ニ係ルモノハ同法施行中其ノ徴收ヲ爲サス  
前項ノ地租ハ非常特別稅法廢止ノ年ノ翌年ヨリ十年間ニ平分シテ之ヲ徴收ス

○登錄稅法 明治二十九年三月二十七日 (改正 三〇年法三一號三二年法六〇、八三號三三年法四四號) 法律第二十七號 三四年法二六號三五年法八號三八號三九年法九、五七、五八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登錄稅法

第一條 登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 (三二年法 八三號) 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ五 (三八年法九號)

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ五 (同上)

三 遺言、贈與其ノ他無價名義ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ四十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ十 (三八年法五七號)

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ二十五

五 從來保有セル所有權ノ保存

不動産價格 千分ノ二

六 共有物ノ分割

不動産價格 千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得

不動産價格 千分ノ二十五

八 地上權、永小作權ノ取得

不動産價格 千分ノ二

存續期間二十年未滿

不動産價格 千分ノ三



存續期間三十年未滿	不動産價格	千分ノ四
存續期間三十年以上	不動産價格	千分ノ五
存續期間ノ定メナキモノ	不動産價格	千分ノ五
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ		
存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス		
九 賃借權ノ取得		
存續期間十年未滿	不動産價格	千分ノ一
存續期間十年以上	不動産價格	千分ノ二
存續期間ノ定メナキモノ	不動産價格	千分ノ一
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ		
存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス		
十 地役權ノ取得	要役地價格	千分ノ一
十一 華族世襲財産ノ創設	不動産價格	千分ノ二十
十二 先取特權ノ保存又ハ取得	債權金額又ハ不動産 工事費用豫算金額	千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特		
權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
十三 質權、抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權		
抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		

十四 競買、強制管理ノ申立	債權金額	千分ノ六
但シ競買若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以		
テ債權金額ト看做ス		
十五 假差押、假處分	債權金額	千分ノ四
但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債		
權金額ト看做ス		
十六 抵當アル債權ノ差押	債權金額	千分ノ六
但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト		
看做ス		
十七 相續財産ノ分離	不動産價格	千分ノ六
所有權ニ付テハ	不動産價格	千分ノ一
十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復	不動産每一箇	金二十錢
十九 假登記	不動産每一箇	金二十錢
二十 (三八年 法九號)		
二十一 附記登記(三四年法 二六號)	不動産每一箇	金十錢
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス		
二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消(同上)		



不動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル  
第三條(同上) 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三(三八年法九號)
- 三 遺言、贈與其ノ他無價名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十
- 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ十五
- 五 從來保有セル所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ一
- 六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一

存續期間十年未満 船舶價格 千分ノ一

存續期間十年以上 船舶價格 千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ 船舶價格 千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録税ヲ計算ス

七 質權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 競賣ノ申立 債權金額 千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復(三四年法二六號) 船舶每一箇 金二十錢

船舶每一箇 金二十錢

船舶每一箇 金二十錢

十二 假登記(同上) 船舶每一箇 金十錢

十三 (三四年法二六號)  
(三八年法九號) 附記登記(三四年法二六號) 船舶每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十四 但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消(同上) 船舶每一箇 金十錢



但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二(三八年法)  
第三條ノ二(五八年法)  
納ムヘシ(四二年法)  
納ムヘシ(三二年法)

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競買、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二二圓

第三條ノ三(同上) 工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競買、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二二圓

第三條ノ四(同上) 鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競買、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二二圓

第四條(三二年法)  
八三號) 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録 每十噸 金五十錢

二 轉籍 每十噸 金十錢

三 除籍 每十噸 金五錢

四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス  
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條(同上) 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録 地價 千分ノ二十

二 地價ノ設定 地價 千分ノ十

三 地價ノ修正 地價 千分ノ十

四 開墾 地價 千分ノ十

五 開墾後下年期附與(三五年法)  
法八號) 地價 千分ノ十

六 地價据置年期附與 地價 千分ノ十

七 新開免租年期延長(同上) 地價 千分ノ十

八 鐵下年期、地價据置年期ノ延長(同上) 地價 千分ノ十

九 低價年期ノ附與 地價 千分ノ一

十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ一

十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一



本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條(同上) 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未満ナルトキハ十圓トス

- 一 合名會社、合資會社設立  
財產ヲ目的トスル出資ノ價格  
千分ノ三
- 二 合名會社、合資會社出資増加  
財產ヲ目的トスル出資ノ價格  
千分ノ三
- 三 株式會社設立  
拂込株金額  
千分ノ四
- 四 株式會社資本増加  
増資拂込株金額  
千分ノ四
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込  
每回拂込株金額  
千分ノ四
- 六 株式合資會社設立  
拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ四
- 七 株式合資會社資本増加  
増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ四
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込  
每回拂込株金額  
千分ノ四
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立  
拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ一
- 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加  
増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ一
- 十一 債券發行  
債權總金額  
千分ノ一
- 十二 支店設置  
每一箇所  
金十圓
- 十三 本店又ハ支店ノ移轉  
每一件  
金五圓

- 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅  
每一件  
金五圓
- 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止  
每一件  
金五圓
- 十六 但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス  
登記ノ更正又ハ抹消  
每一件  
金五圓
- 十七 解散  
每一件  
金三圓
- 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更  
每一件  
金一圓
- 十九 清算ノ結了  
每一件  
金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ  
(四二年)  
(法三一號)
- 一 法人ノ設立、法人設立後ノ事務所設置、事務所ノ移轉  
每一件  
金一圓
- 二 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止、登記ノ更正又ハ抹消、解散、清算人ノ選任解任又ハ變更、清算ノ結了  
每一件  
金五十錢
- 產業組合、產業組合聯合會又ハ產業組合中央會ニシテ登記ヲ受クル場合ニハ前二項ノ規定ニ依ル但シ組合原簿ノ記載ニ付テハ登錄稅ヲ課セス(同上)
- 第六條ノ二(同上) 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
  - 一 商號ノ新設又ハ取得  
每一件  
金五圓
  - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅  
每一件  
金五圓
  - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅  
每一件  
金五圓

登錄稅法







一	文藝、學術、美術ノ著作物 但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク	每一種一回	金十圓
一	新聞紙及定期刊行物	每一號	金五十錢
一	演劇脚本	每一種一回	金五十圓
一	寫眞	每一版	金五圓
一	著作權ノ讓渡又ハ質入	每一件	金五圓
一	無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ實名登録	每一件	金五圓
第十一條	(四二年)特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (注三一年號)特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ		
一	特許權ノ移轉		金五圓
	相續		
二	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
二	使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金十圓
三	前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	每一件	金五圓
四	前二號ノ權利ノ移轉	債權金額	千分ノ六
	相續		
五	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五十錢
五	滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	每一件	金二圓
六	登録ノ更正、變更又ハ抹消	債權金額	千分ノ四
		每一件	金五十錢

	債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
	第十二條(同上) 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ		
一	意匠權ノ移轉		
	相續		
二	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
二	實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金二圓
三	前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	每一件	金一圓
四	前二號ノ權利ノ移轉	債權金額	千分ノ六
	相續		
五	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五十錢
五	滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	每一件	金一圓
六	登録ノ更正、變更又ハ抹消	債權金額	千分ノ四
		每一件	金二十錢
	債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
	第十二條ノ二(同上) 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ		
一	實用新案權ノ移轉		
	相續		
一	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
		每一件	金五圓



二 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金二圓
三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ六
四 前二號ノ權利ノ移轉	相續	
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五十錢
五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	每一件	金一圓
六 登録ノ更正、變更又ハ抹消	債權金額	千分ノ四
債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	每一件	金二十錢
第十三條(同上) 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス		
一 商標權ノ移轉	相續	
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
二 登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金十圓
第十四條(三八年) 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ	每一件	金五十錢
一 試掘權ノ設定	每一件	金七十五圓
二 試掘權ノ變更		
増區又ハ増減區	每一件	金三十五圓

三 減區	減區	每一件	金十圓	
試掘權ノ移轉	相續	每一件	金十圓	
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金三十五圓		
四 採掘權ノ設定	新規登録	每一件	金百五十圓	
新規登録	鑛區合併	每一件	金五十圓	
鑛區合併	鑛區分割	設定鑛區	每一件	金五十圓
鑛區分割	採掘權ノ變更	鑛區訂正	每一件	金五十圓
採掘權ノ變更	鑛區訂正	増區又ハ増減區	每一件	金七十五圓
増區又ハ増減區	減區	每一件	金二十圓	
減區	採掘權ノ移轉	相續	每一件	金二十圓
採掘權ノ移轉	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金七十五圓	
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	抵當權ノ設定	債權金額	千分ノ六	
抵當權ノ設定	新規登録			
新規登録	鑛業法第三十五條第二項ニ基キ			



八	爲シタル承諾及協定ニ因ル設定	每一件	金五圓
八	順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每一件	金十圓
九	抵當權ノ移轉	相續 每一件	金五圓
十	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
十	共同鑛業權者ノ脱退	每一件	金五圓
十一	滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額 每一件	千分ノ四
十二	廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅	每一件	金五圓
十三	登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金十錢
十三	債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
第十五條(四二年法一四號)	砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ		
一	砂鑛權ノ設定	採取區域 <small>河床ハ每二里迄 其ノ他ハ每十萬坪迄</small> 新規登錄 每一件	金十五圓
	砂鑛區合併	每一件	金三圓
	砂鑛區分割	設定砂鑛區每一箇	金三圓
二	砂鑛權ノ變更		

增區	採取區域 <small>河床ハ每二里迄 其ノ他ハ每十萬坪迄</small>	每一件	金十五圓
減區		每一件	金一圓
三	但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス		
三	砂鑛權ノ移轉	相續 每一件	金五圓
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十五圓
四	抵當權ノ設定	新規登錄 債權金額 每一件	千分ノ六
	砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定	每一件	金五圓
五	順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每一件	金十圓
六	抵當權ノ移轉	相續 每一件	金五圓
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
七	滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額 每一件	千分ノ四
八	廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅	每一件	金一圓
九	登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金十錢
	債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ		



以テ債権金額ト看做ス

第十六條(四三二) 左ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 府縣郡市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ニ因ル府縣郡市町村ノ權利ノ取得  
不動産又ハ船舶ノ價格  
千分ノ一
- 二 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ無價名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得  
不動産又ハ船舶ノ價格  
千分ノ一

三 法人ノ合併又ハ組織變更ニ因ル法人ノ權利ノ取得不動産又ハ船舶ノ價格  
前項各號ノ場合ニ於テ税金額十錢未満ナルトキハ十錢トス  
千分ノ一

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條(三三二) 左ニ掲クルモノニハ登録税ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記(三三二法)
- 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記(同上)
- 四 明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第四百十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公

證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債権者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二(三三二) 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム  
前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス  
官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス  
第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○登録税法施行規則 明治三十二年五月十八日(改正三三二) 勅令第二百五號

朕登録税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録税法施行規則

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ



貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ

第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第五條ノ二(三八年勅) 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ

第六條 登録税法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

○領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件 明治三十九年八月九日 勅令第二百十九號

朕領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 領事官ノ取扱フ登記事務ニ關シ本令ニ規定シタルモノニ付テハ登録税法ノ規定ヲ適用セス
- 第二條 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納付スヘシ
- 一 合名會社合資會社設立  
財產ヲ目的トスル出資ノ價格

一萬圓未滿	金十圓
一萬五千圓未滿	金十三圓
二萬圓未滿	金十六圓
二萬五千圓未滿	金十九圓
二萬五千圓以上五十萬圓未滿ハ其ノ二萬五千圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金一圓ヲ加算シ、五十萬圓以上ハ其ノ五十萬圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金五十錢ヲ加算ス	
二 合名會社合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル出資ノ總額ニ對シ前號ニ依リ納付スヘキ登録税ノ金額ヨリ既ニ納付シタル設立又ハ出資増加ノ登録税ヲ控除シタル金額	
三 株式會社株式合資會社設立 拂込株金額又ハ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ付第一號ニ準ス	
四 株式會社株式合資會社資本増加及第二回以後ノ株金拂込 第二號ニ準ス	
五 前各號ニ該當セサル登記 每一件	金一圓
前項ノ場合ニ於テハ新ニ納付スヘキ登録税又ハ既納ノ登録税ト新ニ納付スヘキ登録税トノ合算額カ三百圓ヲ超ユルトキハ之ヲ三百圓ニ減シ既納ノ登録税三百圓ニ達シタルトキハ其ノ後ノ登記ニ付登録税ヲ課セス	
財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ一件毎ニ金一圓ノ登録税ヲ納	

領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件



付スヘシ

第三條 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ一件毎ニ金一圓ノ登録稅ヲ納付スヘシ

- 一 商號ノ新設又ハ取得
- 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
- 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
- 四 商法第五條及第七條ニ依ル登記
- 五 民法第七百九十四條、第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
- 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
- 七 登記ノ更正又ハ抹消

第四條 印紙ヲ以テ登録稅ヲ納付スルコト能ハサルトキハ現金ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十九年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○所得稅法 明治三十二年二月十日 (改正三十四年法一七號 三十八年法三四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅

ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産又ハ營業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クル

トキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス (三十四年法一七號 三十八年法三四號)

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種 法人ノ所得	千分ノ二十五
第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子	千分ノ二十
第三種 前各種ニ屬セサル所得	千分ノ二十五
十萬圓以上	千分ノ五十五
五萬圓以上	千分ノ五十
三萬圓以上	千分ノ四十五
二萬圓以上	千分ノ四十
一萬五千圓以上	千分ノ三十五
一萬圓以上	千分ノ三十
五千圓以上	千分ノ二十五
三千圓以上	千分ノ二十
二千圓以上	千分ノ十七
千圓以上	千分ノ十五
五百圓以上	千分ノ十二
三百圓以上	千分ノ十

所得稅法



戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限り之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戸主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

- 一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル
  - 二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル
  - 三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依ル田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ(三四年法)  
(二七號)
- 前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス
- 第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス
- 一 軍人從軍中ニ係ル俸給
  - 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給
  - 三 旅費學資金及法定扶養料
  - 四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及割賦賞與金(同上)

第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十一條(三八年法)  
(三四號) 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得



調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス

第十三條(同上) 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第十四條 選舉區域内ニ住居シ前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス(三八年法三四號)

- 一 無能力者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者
- 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者
- 四 剝奪公權者及停止公權者
- 五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者
- 六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス(同上)

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選舉人ハ自ラ投票所ニ到リ投票スヘシ但シ郵便ヲ以テ投票ヲ送付スルコトヲ得(同上)

郵便ヲ以テ投票ヲ送付スル場合ニ於テ投票時間ノ終了スルマテニ到達セザリシ投票ハ無効トス(同上)

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 調査委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補闕員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス

調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最多キ補闕員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム



補員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス  
 調査委員ノ定數ヲ増加シタル場合ニ於テ新ニ選舉セラルヘキ調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ稅務署長之ヲ定メ選舉期日ト共ニ之ヲ公示ス(同上)  
 調査委員ノ定數ヲ減少シタル場合ニ於テ退任者ヲ定ムル必要アルトキ又ハ前項ニ依リ調査委員ヲ増加シタル場合ニ於テ各調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(同上)  
 第二十五條(同上) 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク  
 第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ  
 第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス  
 議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル  
 第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス  
 第三十條(同上) 八月三十日マテニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス  
 調査委員會開會ノ日ヨリ第二十五條ノ期間以内ニ又ハ八月三十日マテニ調査結了セサルトキハ所得金額調査未済ノモノニ限リ政府其ノ所得金額ヲ決定ス  
 第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス(同上)  
 第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
 第三十三條 調査委員ニハ日當及旅費ヲ支給ス

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得  
 第三十四條ノ二(同上) 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得  
 第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ  
 第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得  
 第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス  
 審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス  
 審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得  
 第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス(三四年法)  
 第三十八條 納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ稅金ヲ納ムヘシ  
 第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得  
 第四十條(三四年法) 山林ノ所得ヲ除クノ外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス



所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得(三八年法三四號)

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第四十三條ノ一 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二(三四年法二七號) 第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅者ノ住所若住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル納稅者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得(三八年法三四號)

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納

稅地ヲ指定ス

第四十五條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅

管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其ノ逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ税金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分ニ之ヲ施行セス

○所得稅法施行規則 明治三十二年三月二十九日(改正三五年勅令二五四號)

勅令第七十八號

朕所得稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則

第一條 所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買

所得稅法施行規則

下卷 1101



費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他其ノ収入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得税法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以内ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第四條ノ二(三八年勅) 所得稅法第十一條但書ニ依リ特ニ所得調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第五條 所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉前選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第七條ノ二(同上) 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七條ノ三(同上) 稅務署長所得稅法第二十一條ニ依リ調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ同時

ニ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ

第八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條 調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル者ニ限ル(三五年勅) 二五四號

第十一條 調査委員會ノ會長出席セザルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條ノ二(同上) 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年所得稅納稅者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未滿ナルトキ 十日以内

第十二條 調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條 稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(同上)



第十四條 所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ(同上)

第十五條 各稅務監督局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク(同上)

第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調查委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄内ノ調查委員之ヲ選舉ス(同上)

第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス(同上)

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長選舉期日ヲ定メ所轄内調查委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調查委員ニ通知スヘシ(同上)

第十九條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ  
投票ハ稅務管理局ニ差出スヘシ

第二十條 稅務管理局長ハ所轄内調查委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ(同上)

第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條ノ一 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ(同上)

第二十二條ノ二(三五年勅) 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調查委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス

第二十三條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク(同上)

第二十四條 審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ(同上)

第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス  
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得(同上)

第二十九條 審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ(同上)

第三十條 稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(同上)

第三十一條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所得金額ヲ定ム

第三十二條 所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收ス  
前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス

第三十三條 所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條 公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ其ノ發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其ノ所有ヲ證明スヘシ但シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ通知シ便宜ノ方法ニ依リ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ



國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得税ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條 所得税法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ其ノ年所得ノ實況ヲ調査シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(同上)

第三十八條(三八年勅) 稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ、不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期ニ平分シテ徵收ス

第三十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條 納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ又ハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ(三八年勅)

第四十一條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四十二條 納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ

第四十三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

○營業稅法 明治二十九年三月二十七日(改正三三五年法三二號) 法律第三十三號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船渠業
- 一 船舶碇繫場業
- 一 貨物陸揚場業
- 一 鐵道業(三五年法)
- 一 鐵道業(一八號)
- 一 土木請負業
- 一 勞力請負業
- 一 印刷業



- 一 寫真業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業
- 一 料理店業
- 一 公ナル周旋業
- 一 代辨業
- 一 仲立業
- 一 仲買業

第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
  - 二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者
  - 三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ産物ヲ販賣スル者
  - 四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
  - 五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ二(三五年法) 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫真業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物貸賃價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス



第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十條ノ二(同上) 營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ探掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作、修復、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額 建物賃貸價格 從業者	千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
銀行業、保險業、金錢貸付業、物品貸付業	資本金額 建物賃貸價格 從業者	千分ノ四十 一人毎ニ金一圓

倉庫業	製造業、印刷業、寫真業	運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業	鐵道業(三五年法)	土木請負業、勞力請負業	席貸業、料理店業	旅人宿業	公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業
資本金額 建物賃貸價格 從業者	資本金額 建物賃貸價格 從業者 <small>從業者ノ内職工勞役者</small>	資本金額 從業者	收入金額 從業者	請負金額 從業者	建物賃貸價格 從業者	建物賃貸價格 從業者	報償金額 從業者
千分ノ二十 一人毎ニ金一圓	千分ノ四十 一人毎ニ金一圓 一人毎ニ金一圓 一人毎ニ金三十錢	千分ノ二半 一人毎ニ金一圓	千分ノ十 一人毎ニ金一圓	千分ノ二 一人毎ニ金一圓	千分ノ六十 一人毎ニ金一圓	千分ノ四十 一人毎ニ金一圓	千分ノ十五(三五年法) 一人毎ニ金一圓



第十三條 此ノ税法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ  
營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ届出ヘシ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一二就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業ハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス  
前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課シ其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル各店舖其ノ他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ内國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス(三二年法)

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 賣上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル(三五年法)
  - 二 資本金及建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル
  - 三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル
- 資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條(同上) 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃賃價格ハ店舖其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ、其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃賃價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃賃價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲ケル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ税法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得  
銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、鐵道業(同上)



第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ(同上)

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス(同上)

第二十八條ノ一(同上) 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

第二十八條ノ二(同上) 各稅務管理局所轄内ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員ノ定數及審査委員會ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條ノ三(同上) 收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十八條ノ四(同上) 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃賃價格半額以上ヲ減シタルトキ(同上)

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查駁シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃賃價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セザルトキ(同上)

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザルトキ

課稅標準ノ課稅最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

第三十二條 第一條ニ掲ケタル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金銭ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虛偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脫稅シタル者ハ、脫稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十六條 府縣ハ此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以内ノ附加稅



ヲ課スルコトヲ得此ノ附加税ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

- 第三十七條 此ノ稅法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス
- 第三十八條 明治二十九年九月ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス
- 明治二十九年九月ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ稅法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス
- 第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス
- 第四十條(三三號) 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

○營業稅法施行規則

明治二十九年七月二十日 勅令第二百六十九號 (改正三五年勅二二〇號三六勅九九年勅四二勅二三四號)

朕營業稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法施行規則

- 第一條 營業稅法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店舖其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舖其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ届出ヘシ(三五年勅二三〇號)左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ稅務署ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

シ(同上)

- 一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者
- 二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舖其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者
- 三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者
- 第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舖其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業、稅率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ
- 第三條 同一人ニシテ數個ノ店舖其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ
- 第四條 營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數個ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ
- 第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資本金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス(同上)
- 第六條ノ一 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資本金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス(同上)
- 第六條ノ二(三五年勅二二〇號) 株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル出



資金額、拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ノ一 合名會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス(同上)

第七條ノ二(同上) 株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合名會社ニ於テ營業税法第一條ニ掲ケル營業ト同條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタル資本金額中ヨリ營業税法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税標準ト爲スヘキ資本金額トス  
第八條 一個人ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ銀行業ニ在リテハ第七條ノ一ノ規定ヲ準用ス(四二二號勅令)

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課税標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ行情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條(同上)

第十一條 營業税法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ  
營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業税法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同

條第三項ニ依リ其ノ賃借價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業税法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃借價格ヲ計算スヘシ建物の雑作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セス

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ(三二〇號勅令)

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ移轉先ノ稅務署ニ届出ヘシ(同上)

第十五條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署ニ届出ヘシ(同上)

第十六條(同上) 納稅義務アル營業者第一條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課税標準ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務署長ハ營業税法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課税標準ヲ算定スヘシ(三六九號勅令)

第十七條(同上) 稅務署長前條ニ依リ課税標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ(同上) 前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其ノ算定ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業税法第二十七條ノ期限内ニ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ申出ヘシ(三六九號勅令)

第十九條(同上) 稅務監督局長課税標準審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ



課税標準ヲ決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ(三六九號勅)  
前項ノ場合ニ於テハ第十七條第二項ヲ準用ス

第二十條(同上) 審査委員ノ定數ハ五人トス

第二十一條(同上) 審査委員會ハ稅務管監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク(同上)

第二十二條(同上) 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十三條(同上) 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十四條(同上) 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス  
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條(同上) 審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社ノ課税標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ稅務署ハ課税標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課税標準額ノ全部ヲ改算スヘシ(三五〇號勅)

第二十七條 營業者店舖其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舖其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ稅務署ニ届出ヘシ(同上)

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキハ稅務署ノ検査ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ(同上)

附則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ

○印紙稅法

明治三十二年三月九日 (改正三十四年法一六號四〇年法二七號四二年法四二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條(三四年法一六號) 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ(四〇年法二七號)

金高二百圓以下ノモノ(四二年法)

金高千圓以下ノモノ

金高五千圓以下ノモノ

印紙稅三錢  
印紙稅五錢  
印紙稅十錢



- 金高一萬圓以下ノモノ 印紙税二十錢
- 金高二萬圓以下ノモノ 印紙税五十錢
- 金高三萬圓以下ノモノ 印紙税一圓
- 金高五萬圓以下ノモノ 印紙税二圓
- 金高十萬圓以下ノモノ 印紙税四圓
- 金高十萬圓ヲ超ユルモノ 印紙税七圓

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ下ニ定ムル所ノ印紙税ヲ納ムヘシ

- 一 委任狀 印紙税一錢
- 一 爲替手形(三四年法) 印紙税二錢
- 一 銀行預金證書 印紙税二錢
- 一 船荷證券 印紙税二錢
- 一 運送貨物引換證 印紙税二錢
- 一 倉荷預證券 印紙税二錢
- 一 倉荷質入證券 印紙税二錢
- 一 保險證券 印紙税二錢
- 一 株券 印紙税二錢
- 一 債券 印紙税二錢
- 一 株式申込證 印紙税二錢

- 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙税二錢
  - 一 使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙税二錢
  - 一 定款及組合契約書 印紙税二錢
  - 一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙税二錢
  - 一 追認、承認ニ關スル證書 印紙税二錢
  - 一 物品切手 印紙税二錢
  - 一 賣買仕切書 印紙税二錢
  - 一 送狀 印紙税二錢
  - 一 受取書 印紙税二錢
  - 一 金高記載ナキ證書 印紙税二錢
  - 一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙税二錢
  - 一 通帳 印紙税二錢
  - 一 判取帳 印紙税二十錢
- 第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
  - 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
  - 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
  - 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
  - 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書



- 一 小切手
- 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形
- 一 營業ニ關セサル受取書
- 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ買賣仕切書
- 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載
- 一 手形ノ引受、保證
- 一 手形及證券ノ拒絶證書
- 一 手形及證券ノ複本、謄本
- 第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得(三四年法)
- 第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス(二六號)
- 第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ
- 第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ
- 第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、買賣仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高

二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ

之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

○課稅標準額及稅額計算ニ關スル法 明治三十五年三月十一日 法律第二十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル課稅標準額及稅額計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 國稅ノ課稅標準額及稅額ハ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ム

第二條 法令ヲ以テ稅金ノ分納ヲ規定シタル場合ニ於テ稅金全額十錢以下ナルトキ又ハ各納期ニ於ケル稅額錢位未滿ノ端數アルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス

- 一 稅金全額十錢以下ナルトキハ最初ノ納期ニ於テ全額ヲ一時ニ徵收ス



二 各納期ノ稅金額錢位未滿ノ端數アルトキハ錢位未滿ノ端數ニ限リ最初ノ納期ニ於テ合算シテ之ヲ徵收ス

第三條 前條ニ依リ一時ニ徵收シ又ハ合算シテ徵收シタル稅金ハ左ノ場合ニ於テモ之ヲ還付セス  
一 土地所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定、移轉若ハ消滅アリタルトキ

二 地租ヲ課スル土地ニシテ之ヲ課セサル土地ト爲リタルトキ

第四條 前三條ノ規定ハ府縣市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ租稅及公課ニ之ヲ準用ス

第五條 一筆ノ土地ノ地價、地租ニシテ錢位未滿ノモノ及關稅、賣藥印紙稅ニ付テハ第一條ヲ適用セス

附則

第六條 明治三十二年法律第五十七號ハ之ヲ廢止ス

第七條 土地臺帳ニ登錄シタル地價、地租ハ漸次本法ニ依リ更正ス

○課稅標準額及稅額計算ニ關スル法律ニ依ル公共團體指定

明治三十五年四月十六日  
勅令第三百二十九號

朕明治三十五年法律第二十二號第四條ニ依リ公共團體ヲ指定スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十五年法律第二十二號第四條ニ依リ公共團體ヲ指定スル左ノ如シ  
水利組合

沖繩縣ノ區及間切島  
北海道ノ區及土功組合

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國稅徵收法 明治三十年三月二十六日 (改正三十五年法三六號 法律第二十一號 三八年法四六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一 (三五平法 三六號) 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ



二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ  
 三 強制執行ヲ受クルトキ  
 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ  
 五 競賣ノ開始アリタルトキ  
 六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ  
 七 納税人脱稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二(同上) 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先テテ之ヲ徵收セス  
 督促手數料及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先テテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先テテ之ヲ徵收セス

第四條ノ三(同上) 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手數料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

第四條ノ四(同上) 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第四條ノ五(同上) 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過

納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第四條ノ六(同上) 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル

第四條ノ七(同上) 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス  
 納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八(同上) 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(三八年法四六號)

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ



第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條(同上) 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第三章 滯納處分

第十條(同上) 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手数料及税金ヲ完納セサルトキ

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證書ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手数料、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム(三五年法三六號)

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證書ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭

三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印

四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手数料、滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス(同上)

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及ラモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ(同上)

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、



筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收税官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收税官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區長及區長ノ附屬吏員若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條(同上) 動産及有價證券ノ差押ハ收税官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス(三八年法)

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

(三五年法)

第二十三條ノ二(三五年法三六號) 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三(三八年法)

不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收税官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四(同上) 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十四條(三五年法)

差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收税官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス(三八年法)

第二十五條

見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條(同上) 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條(同上) 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、滯納處分費及税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、滯納處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ



第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手数料、滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得(三五年法)

第三十條(同上) 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條(同上) 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手数料、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ  
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス  
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス(三五年勅二七五號ヲ以テ沖繩縣宮古郡八重山郡三六八號ヲ以テ同縣島尻郡中頭郡國頭郡及那霸區首里區ニ施行)  
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○國稅徵收法施行規則 明治三十五年四月十日 勅令第三百三十五號 (改正三八年勅令第三百三十五號)

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ  
市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ  
納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ  
前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ



第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納税人ニ交付スヘシ  
第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ倉庫ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲クルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル  
一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅  
三 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀

ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、滯納處分費及税金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ通ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

差押調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
- 三 差押ノ事由



四 調書ヲ作リタル場所年月日  
 前二項ノ規定ハ債權ノミノ差押ニハ之ヲ適用セス  
 第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ  
 第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ  
 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所  
 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項  
 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時  
 四 開札ノ場所、日時  
 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額  
 六 代金納付ノ期限  
 第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ  
 落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス  
 第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得  
 第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場

所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ(三八年勅六七號)  
 前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得  
 第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム  
 第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ  
 第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ買買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ  
 第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得  
 第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産主任官又ハ清算人ニ督促手数料、滯納處分費及滯納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス  
 第三十條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ  
 賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得







第七條 税金及督促手数料、滞納處分費ハ郵便爲替、日本銀行若ハ其ノ代理店ニ宛テタル送金手形又ハ日本銀行若ハ其ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得(三五年省)

第八條(三四年省) 納税人ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納税スルヲ便トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得(三五年省)

第九條(三五年省) 稅務署長ハ國稅滞納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證票ヲ交付スヘシ(同上)  
用紙厚紙 縦二寸五分横一寸五分

第何號	裏
國稅滞納者	「官氏名」
財產差押	
證票	
稅務署印	

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第九號書式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條(同上) 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條 收稅官吏財產ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得(三五年省)

第十三條 入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財產ノ種類員額及入札價額ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ(同上)

第十四條 入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得(同上)

第十六條(四〇年省) 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財產見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時時之ヲ定ムルモノトス

第十七條 公賣財產ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ(三四年省一八二六)

第十八條(三五年省) 督促又ハ滞納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ(三六年省)

第十九條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十二號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滞納者ニ交付スヘシ  
(書式略ス)

○國稅徵收法ニ依ル公共團體指定  
明治三十三年三月十九日 勅令第四十七號  
(改正 三五年勅五五號二七六號三六年勅二八〇號四一年勅六〇號)

朕國稅徵收法ニ依ル公共團體指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道區制ニ依ル區北海道一級町村制及北海道二級町村制ニ依ル町村沖繩縣區制ニ依ル區沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル町村ハ國稅徵收法第三十三條第三項ノ公共團體ト指定ス

附則



本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件

明治三十年六月十五日  
勅令第三百九十五號

(改正 三十二年勅令一九號 三三年勅令四八、一四五號)

朕市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ

- 一 第三種ノ所得ニ係ル所得稅(三二年勅令三一九號)
- 二 營業稅
- 三 家用醬油稅(三三年勅令一四五號)
- 四 賣藥營業稅
- 五 北海道地方稅(三三年勅令四八號)

附則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

○市町村徵收ノ國稅金ニ對スル交付金交付手續

明治三十一年四月十九日  
大藏省訓令第二十八號

稅務管理局

市町村交付金ハ所屬年度間左記ノ區分ニ依リ稅務署長ヲシテ徵稅簿ニ基キ每稅目市町村ノ實收合計金額ヲ報告セシメ之レニ依リ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

四月ヨリ九月迄(所屬年度ハ金)各翌月十五日  
十月ヨリ三月迄(庫へ納付済ノ月ニ因ル)以内

○沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵收ニ關スル法

明治三十五年三月十一日  
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣ノ區長、間切長若ハ島長及東京府管内伊豆七島中八丈島、大島及利島ノ名主若ハ一式引受人、三宅島、新島、神津島及御藏島ノ地役人ハ國稅ノ徵集ニ關シ國稅徵收法中滯納處分ノ例ニ依ルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ物品納ノ國稅ニ關スルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ現金ニ換算シテ其ノ怠納額ヲ定ム

附則

本法ハ明治三十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件 市町村徵收ノ國稅金ニ對スル交付金交付手續  
沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵收ニ關スル法



○沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件

明治二十二年十二月二十八日 (改正二七年法)  
勅令第四百一十一號

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

- 第一條 納税人ハ税金沖繩縣酒類出港稅ヲ除クヲ金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ(二七年法)
- 第二條 國稅品ハ納税人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ
- 第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

○租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法

明治四十年四月九日  
法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 法令ノ規定ニ依リ國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產ニシテ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ當該官吏ハ本人又ハ財產所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於ケル國稅ノ徵收ハ囑託ヲ受ケタル地ノ當該法令ニ依ル
- 第二條 前條ノ規定ハ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ租稅其ノ他ノ收入ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產カ其ノ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ區域外ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

○法人ニ於テ租稅及煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ

關スル法 明治三十三年三月十二日  
法律第五十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
- 第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法 法人ニ於テ租稅及煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法







- 一 燈明臺敷地
- 一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ
- 一 人民所有ノ權利ヲ失セシ土地
- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
- 一 行刑場

第四種 【地券ヲ發セス】地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(同上)

- 一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 【地券ヲ發シ】地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(同上)

- 一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云(本項ハ元第二種ナルヲ九年第八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス)

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 【地券ヲ發シテ】地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(九年布告八八號布告)

- 一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云(八年布告)
- 一 民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年布告)

一 公衆ノ用ニ供スル道路(一三年布告)  
但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ(告四三號)

○土地收用法 明治三十三年三月六日 法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

- 第一章 總則
- 第二章 事業ノ準備
- 第三章 事業ノ認定
- 第四章 收用ノ手續
- 第五章 收用審査會
- 第六章 損失ノ補償
- 第七章 收用ノ效果
- 第八章 費用ノ負擔
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第十章 訴願及訴訟

附則



土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他

公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ



第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立



會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス  
土地所有者又ハ關係人カ調書ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス  
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作リタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ  
前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス  
一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許



可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
- 二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス  
委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

- 一 府縣名譽職參事會員
- 二 府縣名譽職參事會員ノ補充員
- 三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得



第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ



左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ

- 但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
- 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償

金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

### 第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス



第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス  
府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セヌ又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮

ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス



第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴訟訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ  
郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ  
市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ  
町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準

スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ  
第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

○土地收用法施行令 明治三十三年三月三十日 勅令第九十九號

朕土地收用法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法施行令

- 第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ
- 第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ
- 日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ
- 第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル圖書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ
- 一 御陵墓地及御料地
- 二 國有地



三 現ニ公用ニ供スル土地  
 四 社寺境内地  
 五 名所、舊蹟及古墳墓

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ  
 第六條 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ  
 第七條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調書ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ  
 第八條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ  
 第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ  
 一 工事ノ種類  
 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目  
 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係  
 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス  
 第十條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ  
 第十一條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收

用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ  
 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ  
 第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス  
 第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル  
 第十三條 高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル  
 第十四條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル  
 一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下  
 二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下  
 三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下  
 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス  
 第十五條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル  
 第十六條 鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得  
 第十七條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル  
 第十八條 土地收用法第五十六條ノ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得



第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村  
 長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件 明治三十三年三月三十日  
 勅令第百號  
 朕土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ  
 方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス  
 第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス  
 第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間  
 カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス  
 第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル  
 期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス  
 第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日  
 ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日  
 ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス  
 第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第二十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於  
 テハ其ノ送達ニ要スル日時ヲ算入セス  
 第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フル  
 コトヲ得  
 第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得  
 第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ  
 爲スコトヲ得  
 一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得  
 第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス  
 第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ  
 此ノ限ニ在ラス  
 法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ  
 前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得  
 組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得  
 第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又  
 ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得



第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近鄰ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ  
前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件

明治三十三年三月三十日  
勅令第三百一號

朕土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス



附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件

明治三十三年三月三十日  
勅令第三百二號

朕土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 傭人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件

明治三十三年三月三十日  
勅令第三百三號

朕土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地

二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地

三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地

四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地

五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用法ニ關スル件

明治三十三年四月十九日  
內務省訓令第九號

(改正四〇年  
訓九號)

北海道廳 府縣



- 第一條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與フル場合ニ於テ其起業地内ニ土地收用法施行令
- 第三條ニ掲ケタル土地アルトキハ本大臣ニ稟伺ノ上處分スヘシ
- 第二條(四〇年) 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ關係書類ヲ添ヘ其ノ都度本大臣ニ報告スヘシ
  - 一 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキ但シ前條ニ依リ稟伺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 二 收用審査會ノ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキ
  - 三 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキ
- 第三條 左ニ掲ケタル事項ニ付テハ其都度郡市長ヲシテ地方長官ヲ經由シテ本大臣ニ報告セシムヘシ
  - 一 土地收用法第十五條第一項ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間
  - 二 土地收用法第十五條第三項ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域
- 第四條 土地收用法第十三條ニ依リ起業者ノ申請書ヲ進達スルトキハ起業地全部ノ市町村名調査ヲ添付スヘシ

○土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場

合ニ關スル件 明治三十五年七月三十日  
内務省訓令第十四號

北海道廳 府縣

明治三十三年法律第二十九號土地收用法第十三條ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ

於テ其事業施行ノ爲メ御料地及國有林野ニ潰地ヲ要スルモノアルトキハ御料局支廳若クハ御料局事務所所管ノ御料地ニ付テハ當該支廳長若クハ事務所長ニ其他ノ御料地ニ付テハ御料局長ニ又國有林野ニ付テハ大林區署長ニ其支障ノ有無ニ付協議ヲ遂ケ事業認定申請書進達ノ際該協議ノ顛末ヲ具申スヘシ

○永代借地權ニ關スル法 明治三十四年九月二十日(改正四一年法)  
法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル永代借地權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス
- 永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコトヲ得
- 地券、條約又ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス
- 第二條 永代借地權ノ移轉アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第二條ノ二(四一年法) 永代借地權ノ競買ニ付テハ本法ニ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外民事訴訟法及競買法中不動産ノ競買ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第二條ノ三(同上) 競買ノ申立書ニハ永代借地券ヲ添附スヘシ申立人地券ヲ提出スルコト能ハサルトキハ地方廳ノ認證アル地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ關スル件  
永代借地權ニ關スル法



第二條ノ四(同上) 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ地方廳ニ通知スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ競賣手續中地券ニ移轉ノ記載ヲ爲スコトヲ得ズ

第二條ノ五(同上) 民事訴訟法第七百條第一項又ハ競賣法第三十三條第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ競落人カ取得シタル永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ地方廳ニ囑託スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申立人ヨリ提出シタル地券アルトキハ囑託書ニ之ヲ添附スヘシ

第二條ノ六(同上) 地方廳ニ於テ前條ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ返還スヘシ

第二條ノ七(同上) 地方廳カ第二條ノ五ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ囑託書ニ地券ノ添附ナキトキハ

地券名義人ニ對シ地券ノ提出ヲ命スヘシ

地券名義人カ地券ヲ提出シタルトキハ遲滯ナク其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ八(同上) 地券名義人カ地券ヲ提出セサルトキハ地方廳ハ競落人ニ對シ更ニ新地券ヲ發給スヘシ

提出セサル地券ハ新地券ノ發給ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第二條ノ九(同上) 前條第一項ノ規定ニ依リ發給スヘキ地券ハ地方廳ノ記録ニ基キ原地券ノ全文ヲ掲ケテ之ヲ作成シ且競落人ノ氏名、國籍、住所、新地券發給ノ原因、其ノ日附及地方長官ノ官氏名ヲ記入シ官印ヲ押捺スヘシ

第二條ノ十(同上) 地方廳カ第二條ノ八第一項ノ規定ニ依リ新地券ヲ發給スルトキハ其ノ地券ニ永代

借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ十一(同上) 地券カ第二條ノ八第二項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ舊地券名義人ニ通知シ且官報及新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第二條ノ十二(同上) 地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載シタルトキハ遲滯ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ニハ地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條ノ十三(同上) 管轄登記所ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ移轉、競落ニ因リテ消滅シタル永代借地權上負擔記入ノ抹消及競賣申立記入ノ抹消ノ登記ヲ爲スヘシ

第二條ノ十四(同上) 裁判所ハ第二條ノ六ノ規定ニ依リ地券ノ返還ヲ受ケタルトキハ第二條ノ七第二項及第二條ノ十ノ規定ニ依リ地券ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ競落人ニ交付スヘシ

第二條ノ十五(同上) 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方廳ニ通知スヘシ

第二條ノ十六(同上) 永代借地權ノ競賣ニ關スル規定ハ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第四條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

第五條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



第七條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

○永代借地權ニ關スル件 明治三十四年九月二十日 勅令第百七十八號

朕永代借地權ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 永代借地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載スルコトノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ永代借地權ニ關スル届出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通知書ニ永代借地券ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ既ニ通知ヲ爲シタル永代借地ニ關シ更ニ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ地券ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ通知書ニ永代借地ノ表示、當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第二條 永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特別ノ登記簿ヲ設ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第三條 登記簿ハ永代借地登記簿及<sup>永代借地</sup>建物登記簿ノ二種トス

第四條 永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尙表題部ニ表

示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

第五條 <sup>永代借地</sup>順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載ス

表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス



順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第六條 未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地權ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第七條 登記所ニ於テ永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ永代借地權ノ既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ永代借地權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

既登記ノ永代借地權ニ關スル届出ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ登記ニ變更ヲ生スヘキトキハ職權ヲ以テ變更ノ登記ヲ爲スヘシ

未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第八條 明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事廳ニ於テ爲シタル登記ハ領事廳ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記所ニ引渡シタルモノニ限リ本令ニ依リテ爲シタル登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依リ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ニ依リテ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區位番號欄及事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條 永代借地權ハ他ノ名稱ニテ登記セラレタルモノト雖前條ノ規定ニ依リ登記ヲ移ス場合ニ於テ

ハ之ヲ永代借地權ト記載スヘシ

第十一條 永代借地權又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ目的トスル權利ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利第四條又ハ第五條ノ規定ニ適合セサルトキハ登記用紙ノ各區中其ノ權利ト最モ類似スル權利ヲ登記スヘキ區ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十二條 本令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治三十二年勅令第三百二十九號ハ之ヲ廢止ス

○政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件

○政府ノ永代借地券ヲ取得シタル場合ニ關スル件 明治三十四年九月二十日勅令第三百七十九號

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受クヘシ

前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス



第二條 帝國ノ臣民又ハ法人カ前條第一項ノ規定ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ地方廳ハ其ノ土地所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トシタル權利ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ權利ハ所有權ヲ目的トシタルモノトシテ存續ス

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十二年勅令第三百三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ニシテ本令施行前帝國法人ノ取得シタルモノハ其ノ土地ニ付既ニ所有權ノ登記アリタル場合ヲ除キ永代借地權トシテ存續ス但シ第一條ニ依リ所有權ヲ取得スルコトヲ妨ケス

○政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル

ル永代借地權ヲ取得シ又ハ其土地ノ所有權ヲ取得シタルトキ

通知ノ件 明治三十四年九月二十五日 內務省令第二十四號

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第三百七十九號第一條ニ依リ地券ノ抹消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知ス可シ

○耕地整理法 明治四十二年四月十二日 法律第三十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル耕地整理法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

耕地整理法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ

- 一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事
- 二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理
- 三 前二號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕

第二條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ整理施行地ニ付所有權以外ノ登記シタル權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第三條 耕地整理ヲ施行セムトスルトキハ設計書ヲ作り關係人ノ同意書ヲ添ヘ數人共同シテ施行セムトスルモノニ在リテハ尙規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シ又ハ其土地ノ所有權ヲ取得シタルトキ通知ノ件 耕地整理法



設計書、規約若ハ整理施行地區ヲ變更シ若ハ一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲シ又ハ事業ヲ停止若ハ廢止セムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ耕地整理施行ノ爲爲シタル借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ事業ヲ廢止シ、整理施行地區ヲ減少シ又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更スルコトヲ得ス

前項整理施行地區ノ變更ニ依リ新ニ整理施行地區ニ編入セラルヘキ土地ニ付テハ第一項ノ同意書ニ關スル規定ヲ準用ス

地方長官第一項又ハ第二項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前五項ノ規定ハ耕地整理組合ニ之ヲ適用セス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地ノ所有者、占有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 整理施行地ノ所有者ニ屬スル耕地整理ニ關スル權利義務ハ土地ノ所有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第六條 本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條 地方長官又ハ郡長耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 前條ノ規定ハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者カ整理施行ノ爲必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ耕地整理組合ノ組合長ヲ除クノ外其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出スヘシ

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス

耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條 本法ニ依ル開墾、地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關シテハ地租條例第十條ノ一乃至第十一條、第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區内土地ノ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配



賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ整理施行地ノ現地價ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ現地價ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現地價ノ合計額ト看做ス

整理施行地ノ地租ハ其ノ整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地域、地目及地價ニ依リ之ヲ徵收ス

規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ前二項ノ整理施行地區ト看做ス

第十四條 耕地整理ヲ施行スルニ當リ其ノ地區内ノ土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ地目ヲ變換スル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ前條第一項ノ現地價トス

前項ノ場合ニ於テ開墾シタル土地ニ付テハ工事著手ノ年ヨリ二十年目、變換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス但シ開墾シタル土地ニシテ工事著手ノ年ヨリ二十年目ニ達シ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ十年以内ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

地租ヲ課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ地租ヲ課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一條第一項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ設定シ前條第一項ノ現地價トス

第十五條 整理施行地區内ノ土地中開墾著手後九年、地目若ハ地類ノ變換後五年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減ニ關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 開墾若ハ地類ノ變換ヲ爲シタル土地、地目ヲ變換シ地價ノ修正ナキ土地又ハ鐵下年期、新開免租年期、地價据置年期ヲ有スル土地ハ工事著手ノ際地價ヲ修正シ又ハ設定ス

二 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

三 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ設定シタル土地ニ付テハ開墾著手後十年目、地目若ハ地類ノ變換後六年目又ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號ニ記載シタル土地又ハ地目ヲ變換シ地價ノ修正アリタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス

第十六條 工事完了シタルトキニ於テ開墾著手後九年、地目若ハ地類ノ變換後五年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル年期ヲ有スルモノニシテ年期ノ終了セサル土地又ハ第十四條第二項ニ該當スル土地アルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ殘年期間又ハ第十四條第二項ニ定ムル期間中ハ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ但シ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス」前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ボサス

第十八條 賃借地ニ付耕地整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ解除ニ依リ生シタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得但



シ整理施行者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ貸借人ニ對シ求償スルコトヲ得

第十九條 耕地整理施行ノ爲賃借地ノ利用ヲ妨ケラルルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 耕地整理施行ノ爲著シク賃貸地ノ利用ヲ増シタルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ増額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第二十一條 耕地整理施行ノ爲地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者、永小作權者又ハ地役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 整理施行地ノ上ニ存スル地役權ハ耕地整理施行ノ後仍從前ノ土地ノ上ニ存ス

耕地整理施行ノ爲地役權者カ其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス

耕地整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十四條 前六條ノ規定ニ依ル賃借借ノ解除、地上權若ハ永小作權ノ拋棄、地役權ノ拋棄若ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價ノ減額、拂戻若ハ増額ノ請求ハ第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ

第二十七條、第二十八條、第三十條第一項、第二項又ハ第四十四條第二項ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金銭アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ整理施行地又ハ之ニ存スル建物カ訴訟ノ目的タリ又ハ整理施行地區ニ編入後訴訟ノ目的ト爲リタル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金銭ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

帝室及國ハ前項ノ責ニ任セス

第二十七條 整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必要アルトキハ整理施行地區内ノ工作物又ハ木石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二十八條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合員ハ耕地整理施行ノ爲受ケタル損害ニ對シ第七條、第八條又ハ前條ノ場合ヲ除クノ外補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 整理施行地ニ付權利ヲ有スル者耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル後ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタルトキハ之



ニ關スル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス  
前項告示ノ後ニ於テ土地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノミ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依ル  
前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 整理施行地ニ以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉ル場合ニ於テ一筆ノ土地ノ區域ハ二以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三十三條 數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テ既登記ノ土地ニ對スル換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第三十四條 本法中土地所有者ノ數ヲ計算スル場合ニ於テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス但シ共有者ノミ共同シテ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ第五十條、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第六十五條第二項又ハ第六十八條第二項中土地ノ面積又ハ地價ハ共有者ノ持分ニ依リテ之ヲ定ム

第三十五條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ耕地整理ニ關スル書類ノ送付ヲ爲スコト能ハ

サル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ整理施行者又ハ監督官廳カ公告ヲ爲ストキハ其ノ公告ノ日ヲ以テ書類ヲ發送シタルモノト看做シ二十日ヲ經過スルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付ヲ了リタルモノト看做ス

第三十六條 第三十條第三項ノ認可ヲ受ケタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ申請スヘシ

第三十七條 整理施行地區内ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十八條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キ又ハ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更スヘシ

前項ノ規定ニ依ル引繼又ハ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三條第五項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 監督官廳ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ本法ノ規定ニ依ル職權ノ一部ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第四十條 本法中府縣、郡、市町村、郡長、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市制、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第二章 耕地整理組合  
第一款 總則  
第四十一條 耕地整理ヲ施行スル爲必要アルトキハ耕地整理組合ヲ設立スルコトヲ得



耕地整理組合ハ法人トス

第四十二條 耕地整理組合ハ整理施行地ヲ以テ其ノ地區トス

第四十三條 左ニ掲クル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 御料地、國有地

二 官ノ用ニ供スル土地

三 府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

四 名勝地、舊蹟地

五 古墳墓地、墳墓地

六 社寺境内地

七 鐵道用地、軌道用地

八 建物アル宅地

第四十四條 特別ノ價值又ハ用途アル土地ハ土地所有者及關係人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地收用法第四十七條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十四條、第五十六條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收用法第十九條ノ規定ニ依ル公告又ハ通知ト看做ス

第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第八十七條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ其ノ地區内ニ土地ヲ所有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 耕地整理組合ノ名稱中ニハ耕地整理組合ナル文字ヲ用ウヘシ

耕地整理組合ニ非サルモノハ耕地整理組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第四十七條 組合員又ハ組合員タルヘキ者ニシテ組合ノ地區所在ノ市町村若ハ其ノ隣接市町村ニ住所若ハ居所ヲ有セサル者又ハ土地ノ共有者ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲組合ノ地區所在ノ市町村若ハ其ノ隣接市町村ニ住所若ハ居所ヲ有スル者又ハ共有者中ノ一人ヲ以テ代表者ト爲シ之ヲ組合ニ通知スヘシ

前項ノ代表者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十八條 前條ノ委任ノ終了ハ組合ニ通知アル迄之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十九條 第四十七條第一項ノ手續ヲ爲ササル土地共有者ニ對スル書類ノ送付ハ其ノ一人ニ對シ之ヲ發送シタル時ニ於テ完了シタルモノト看做ス

第二款 組合ノ設立及解散

第五十條 耕地整理組合ヲ設立セムトスルトキハ組合ノ地區タルヘキ區域内ノ土地所有者總數ノ二分ノ一以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ總面積及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ヲ得テ設計書及規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ



第五十一條 耕地整理組合ハ前條地方長官ノ認可ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨ヲ告示スヘシ

組合ハ前項ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十二條 組合設立ニ關スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第五十三條 組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス但シ第二號ノ場合ニ於テ還了セサル組合債アルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 規約ニ定メタル事由ノ發生
  - 二 目的タル事項ノ完成又ハ完成ノ不能
  - 三 總會ノ議決
  - 四 合併
  - 五 事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼キタルトキ
  - 六 普通水利組合ニ變更シタルトキ
  - 七 組合員一人ト爲リタルトキ
  - 八 監督官廳ノ處分
- 前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ第三號又ハ第四號ニ該當スルトキヲ除クノ外其ノ旨ヲ告示スヘシ
- 第五十四條 組合ニ於テ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合債ヲ負擔スルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務分擔ニ關スル規約ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十五條 組合ノ地區ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合ノ地區ニ編入セラルヘキ土地アルトキハ組合長ハ設計書案及規約案ヲ作り編入區域ノ土地所有者ノ總會議ニ付シ其ノ議決ヲ前條ノ總會ノ議決ニ添附スヘシ

前項ノ總會議ノ議決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者ノ代理人ヲ許スコトヲ得

第六十六條ノ規定ハ第一項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第五十六條 前條ノ總會議ハ編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十七條ノ規定ハ前項ノ同意ニ之ヲ準用ス

第五十七條 設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ハ第五十三條第二項又ハ第五十四條第二項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十八條 組合ヲ合併シタルトキハ合併ニ依リ解散シタル組合ニ屬スル權利義務ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ移轉ス

第五十九條 組合員一人ト爲リタル爲組合解散ノ場合ニ於テハ其ノ事業ハ一切ノ權利義務ト共ニ土地所有者ニ移轉ス

前項ノ土地所有者ハ之ヲ第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ト看做ス

第六十條 組合解散シタルトキハ第五十三條第一項第四號、第六號又ハ第七號ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ

組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス



第三款 組合ノ會議

- 第六十一條 別ニ規定アルモノノ外左ニ掲クル事項ハ總會ノ表決ヲ經ヘシ
- 一 第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲ス事
  - 二 組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事
  - 三 經費ノ收支豫算ヲ定ムル事
  - 四 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事
  - 五 組合長、組合副長若ハ評議員ヲ選任シ又ハ解任スル事
  - 六 組合費、夫役現品ノ分賦收入ニ關スル事
  - 七 事業報告書及收支決算書ヲ承認スル事
  - 八 工作物又ハ設備ノ維持管理方法ヲ定ムル事
  - 九 訴願、訴訟及和解ニ關スル事
  - 十 規約ニ定メタル事項
  - 十一 其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項
- 第六十二條 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得
- 評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六十三條 總會ノ表決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ組合長ハ專決處分シ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ但シ設計書、規約若ハ組合地區ノ變更又ハ組合ノ解散若ハ合併ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 組合長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ處分前評議員會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ評議員ヲ置カサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十四條 總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第六十五條 總會ハ組合長之ヲ召集ス
- 組合員總數ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ組合地區内ノ土地ノ總面積若ハ總地價ノ五分ノ一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ召集スヘシ
- 第六十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ五日前ニ會議ノ日時、場所及目的ヲ記載シテ各組合員ニ通知ヲ發スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ於テハ期間ヲ二日迄短縮スルコトヲ得
- 第六十七條 組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セサル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權ヲ有セシムルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ第六十八條第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス
- 第六十八條 總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
- 第五十四條又ハ第六十一條第一號、第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令又ハ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十九條 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ表決權ヲ行フ者ハ出席者ト看做ス
- 第七十條 第三十一條但書ノ規定ニ依リ第三十條ノ處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ其ノ處分ヲ爲サ



ムトスル土地ニ關スル組合員ノ總會ヲ以テ總會ト看做ス  
第七十一條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル議員ヲ以テ組織スル組合會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

第七十二條 總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前二條ノ規定ニ依ル組合員ノ總會議又ハ組合會ニ之ヲ準用ス但シ組合會ニ於テハ組合ノ解散、合併又ハ地區ノ變更ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四款 組合ノ管理

第七十三條 組合ニ組合長一人及組合副長一人又ハ數人ヲ置ク

組合長又ハ組合副長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ特別ノ事情アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

組合長、組合副長共ニ副員ト爲リタルトキハ地方長官ハ臨時代理者ヲ指定スルコトヲ得

地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

組合長、組合副長又ハ臨時代理者ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十四條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アルトキハ其ノ代理ノ順序ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第七十五條 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十六條 組合ニ評議員ヲ置ク但シ特別ノ事情アル爲地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

評議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應ジ並業務及財産ノ狀況ヲ監査ス

組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲシテ組合ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七十七條 組合長ハ設計書、規約、組合員名簿、會議ノ議事録其ノ他組合ニ關スル書類及帳簿ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五款 組合ノ財務

第七十八條 組合ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

夫役現品ノ分賦及之ニ代ルヘキ金額ニ關スル規定ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第七十九條 組合員ニシテ組合費又ハ第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金額ヲ滯納スルトキハ市町村ハ組合長ノ請求ニ依リ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額中百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ徵收金ハ組合地區内ノ土地ニ關シ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス

前三項ノ規定ハ組合員カ夫役現品ニ代ルヘキ金額ヲ滯納スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十條 組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ



前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以内ニ之ヲ還了スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限り二十年迄延期スルコトヲ得

第八十一條 組合ニシテ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ帝室及國ヲ除クノ外組合員ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 監督

第八十二條 耕地整理ハ第一次ニ郡長、第二次ニ地方長官、第三次ニ主務大臣之ヲ監督ス但シ整理施行ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市内ニ止ル場合ニ於テハ第一次ニ地方長官、第二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十三條 主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議ノ表決又ハ整理施行者ノ行爲カ設計書、規約又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合長若ハ組合副長ヲ解任シ、評議員若ハ組合會議員ノ改選、事業ノ停止若ハ組合ノ解散ヲ命シ又ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第八十四條 監督官廳ハ整理施行者ヲシテ耕地整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類、帳簿、出納又ハ工事ヲ検査シ、設計書又ハ規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 監督官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可申請ニ對シ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第八十六條 第三條ノ規定ニ依ル耕地整理ノ施行者ハ整理施行地區ノ變更ニ異議アル關係人、第四十三條若ハ第四十四條ノ規定ニ違反シテ耕地整理組合ノ地區ニ編入シタル土地ノ所有者若ハ關係人又

ハ第三條第二項但書若ハ第五十四條第一項但書ノ規定ニ依リ異議アル債權者ハ各耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可ノ告示、耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示又ハ第三條第四項若ハ第五十四條第二項ノ規定ニ依リ當該事項ノ告示アリタル日ヨリ六十日以内ニ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ裁決アル迄目的タル土地ニ付耕地整理ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

第八十七條 第四十四條第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ付協議調ハサルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十八條 總會議、總會又ハ組合會ノ招集手續又ハ表決カ違法ナル場合ニ於テ之ニ對シ不服アル者ハ其ノ表決ノ日ヨリ十四日以内ニ地方長官ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項異議ノ申立アリタル場合ニ於テ監督官廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ表決又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第八十九條 監督官廳ノ處分ニシテ本法中他ノ條項ニ於テ地方長官ノ告示ヲ必要トスル事項ニ相當スルモノニ付テハ地方長官ハ之ヲ告示スヘシ

整理施行者ハ前項ノ告示アル迄其ノ受ケタル處分ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス  
前二項ノ規定ハ監督官廳ノ命令シタル停止處分ノ解除ニ之ヲ準用ス

第四章 罰則



第九十條 耕地整理施行ニ關シ設ケタル標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合長若ハ組合副長本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス  
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第九十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(四十二年勅令二三〇號ヲ以テ  
四十二年十月十六日ヨリ施行)  
明治三十二年法律第三十九號ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ土地ノ區劃形狀變更ノ許可ヲ得タル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十三條 北海道ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
第九十四條 本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ付テハ以下數條ニ規定スルモノヲ除クノ外舊法ノ規定ヲ適用ス

第九十五條 本法第一條、第二條、第四條、第八條、第十條、第十七條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十五條乃至第四十條、第八十二條、第八十四條及第八十五條ノ規定ハ本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ之ヲ適用ス

第九十六條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ得タル者ハ發起人又ハ整理委員ノ申請ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法ニ依ル耕地整理組合ト爲スコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲シタルトキハ耕地整理ニ關スル從前ノ設計書又ハ規約ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ反セサル範圍内ニ於テ本法ノ規定ニ依ル設計書又ハ規約ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル耕地整理組合ハ耕地整理ニ關スル參加土地所有者共同ノ權利義務ヲ承繼ス  
第九十七條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法第五十條ノ規定ニ依ル耕地整理組合設立ノ申請ト爲スコトヲ得  
第九十八條 舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ爲シタル處分ニ對スル訴願ニ關シテハ各舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依ル

○耕地整理法施行規則 明治四十二年十月十三日 農商務省令第三十九號

耕地整理法施行規則左ノ通改正ス  
耕地整理法施行規則

第一章 總則

第一條 整理施行地區内ニ於テ土地ヲ所有スル者ニ非サレハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ト爲ルコトヲ得ス但シ耕地整理組合設立ノ認可申請者ニ付テハ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ整理施行地區所在ノ市町村ニ事務所ヲ設クヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ其ノ鄰接市町村ニ設クルコトヲ得  
事務所ニハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ備ヘ置クヘシ  
共同施行者若ハ組合員タルヘキ者又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス



- 第三條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ其ノ氏名若ハ名稱、住所、整理施行地區及事務所ヲ整理施行地區ノ屬スル各市町村長ニ届出ツヘシ
- 第四條 耕地整理法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル通知又ハ公告ニハ立入ノ目的、場所及期日ヲ示スヘシ  
前項ノ公告ハ立入ルヘキ土地ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ少ナクモ三日間之ヲ揭示スヘシ
- 第五條 整理施行地ノ地價ヲ計算スル場合ニ於テ地租ヲ課セサル土地及耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ假地價ヲ附スヘシ但シ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 耕地整理事業カ府縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請書ニ其ノ團體ノ承認ヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ  
前項ノ規定ハ設計書、規約又ハ整理施行地區變更ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第七條 國有ニ屬スル森林原野、道路、堤塘、溝渠、溜池等又ハ府縣ノ公用若ハ公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地區ニ編入スル爲メ耕地整理法又ハ本則ノ規定ニ依リ認許ヲ申請スル場合ニ於テハ耕地整理施行、耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的

- 二 工事ノ計劃説明
  - 三 工事施行ノ方法及順序
  - 四 主要工事ノ仕様
  - 五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
  - 六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
  - 七 整理施行地及之ニ鄰接スル土地ノ現形圖
  - 八 整理豫定圖
  - 九 工事ノ著手及完了ノ豫定時期
  - 十 工事ニ要スル費用及夫役現品ノ豫算
- 第九條 規約ニハ耕地整理法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 事業ノ範圍
  - 二 整理施行地區
  - 三 耕地整理組合ニ在リテハ名稱
  - 四 事務所ノ所在地
  - 五 耕地整理組合ニ在リテハ組合長、組合副長及評議員ノ定數、選任、解任及任期ニ關スル規定、共同施行ニ依ル耕地整理ニシテ役員ヲ置クモノニ在リテハ其ノ名稱、定數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
  - 六 會議ニ關スル規定
  - 七 處務及會計ニ關スル規定



- 八 補償金評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 九 費用及夫役現品ノ分賦收入方法
- 十 耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於ケル土地使用ニ關スル規定
- 十一 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分方法
- 十二 土地ノ價額評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 十三 數人共同シテ施行スル耕地整理ニ在リテハ設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ニ關スル規定
- 第十條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前第八條第七號、第八號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
  - 一 整理施行地ノ屬スル郡、市町村及土地各筆ノ字、番號
  - 二 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日
  - 三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
  - 四 耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ本則第五條ニ依リ定メタル假地價
  - 五 工事ノ著手及完了ノ豫定期期
- 第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ前二條ノ手續ヲ爲ヘスシ

- 第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滞ナク換地説明書、整理確定圖及地價配當案ヲ作ルヘシ
  - 前項ノ地價配當案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ
  - 第十四條 耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ換地説明書、整理確定圖及耕地整理組合ニ在リテハ總會又ハ總會議ノ議事録ヲ添附スヘシ
  - 第十五條 耕地整理法第十五條第一號ノ規定ニ依リ地價ヲ修正又ハ設定シタル場合ニ於テ工事完了前事業ノ廢止又ハ耕地整理組合ノ解散ノ爲工事ノ利益ヲ受クルコト能ハサル土地ニ付テハ廢止又ハ解散ノ時ヨリ地價ノ修正又ハ設定ナカリシモノト看做ス整理施行地區ノ變更ニ依リ地區外ニ除斥セラレタル土地ニ付亦同シ
  - 第十六條 耕地整理法第三十條第四項ノ告示アリタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附シテ所轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ
  - 第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル申告ハ地價ノ配賦ヲ受ケタル後遲滞ナク所轄稅務署長ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ共同施行者又ハ耕地整理組合ニ在リテハ協議一致ヲ證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
  - 第十八條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニ付登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滞ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
  - 第十九條 各筆毎ニ換地ヲ割當テサリシ土地ニシテ耕地整理法第三十條第四項ノ告示前登記ヲ爲シタ



ルモノニ付テハ整理施行者ハ其ノ告示後遲滞ナク割當ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ評議員ヲ置ク耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク前項ノ土地ニ付登記ヲ申請スヘシ

第二十條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業年度ハ一箇年トス

前項ノ事業年度ハ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 共同施行者又ハ耕地整理組合ハ每事業年度前經費ノ收支豫算ヲ定ムヘシ但シ初年度ニ於テハ耕地整理施行者又ハ耕地整理組合設立ノ認可後遲滞ナク之ヲ爲スヘシ

第二十二條 共同施行者又ハ耕地整理組合ハ每事業年度經過後遲滞ナク當該年度ノ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十三條 耕地整理法第三十五條ノ規定ニ依ル公告ハ整理施行地區ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ三日間送付スヘキ書類ノ要領ヲ揭示スヘシ

第二十四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理ノ事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼ク場合ニ於テ其ノ引繼完了シタルトキハ共同施行者又ハ耕地整理組合長ハ遲滞ナク其旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレタルトキ又ハ耕地整理組合ノ清算結了シタルトキハ整理施行者又ハ組合長ハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ整理施行地區ノ屬スル市町村長ニ引渡スヘシ其ノ整理施行地區ニ以上ノ市町村ニ涉ルトキハ整理施行者又ハ組合長ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ書類及帳簿ヲ引渡スヘキ市町村長ヲ指定スヘシ

耕地整理法第五十三條第一項第五號ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 市町村長前條第一項ノ規定ニ依リ書類及帳簿ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ左ニ掲クルモノニ付テハ十年間、其ノ他ノモノニ付テハ五年間之ヲ保存スヘシ

一 耕地整理法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可、認許又ハ同意ヲ證スル書面

二 設計書

三 規約

四 土地原簿

五 權利者名簿又ハ組合員名簿

六 議事録

七 換地説明書

八 整理確定圖

九 事業報告書

十 收支決算書

前項ノ規定ハ明治四十二年勅令第二百三十一號第三條ノ規定ニ依リ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者カ耕地整理ニ關スル書類及帳簿ノ引繼ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本則中府縣、郡、市町村、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第二章 一人施行及共同施行

第二十八條 耕地整理法第三條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ